

いろいろといろ
に

なほ

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO2です。
一冊目はこちら <http://p.booklog.jp/book/36687>

エイプリルフル

エイプリルフル、だと？

嘘をついたりつかれたり。なんだそのけしからん祭りは。

俺は騙されないぞ。そんなものは攻略済みだ。

嘘をつく相手もつかれる相手もない俺様には全く死角はない。

え、涙？ばっ何言って。

実は、俺口ボだから時々オイルが漏れるんだぜ？

[#エイプリルフル](#) [#twnovel](#)

人間は4月1日に嘘をつく。神様は学んだ。

この日人々が話す言葉は嘘なのだ。

口からぽろっと出た言葉さえ嘘なのだから、書いたものなど強い決意の大嘘に違いない。

特に [#エイプリルフル](#) なんてついてる発言は、絶対に本当にしてはいけない。

人を愛するが故、神様はTLを追う。

[#twnovel](#)

お前が好きだ、と男友達から言われた。

親友なだけに困惑していると、今日は4月1日だぜ？と言われてホッとする。

冗談ついでに、と奴は書類をさし出した。

休み使って一緒にカナダ行きたいからこれ書いといてって。

何って聞くと、婚姻届みたいなもんって。

サインしたら俺、どうなるの？

[#twnovel](#)

花卉

桜吹雪、花卉に口付けるその人は美しかった。

その唇を僕に、と思うや否や酔いにまかせ彼女の唇を奪った。

途端に「バクッ」暗転。

「間違って食った」「花卉じゃない」「吐け吐け」

彼女に飲まれた先には小人達。

驚く間もなくまた外へ。

「私が世界中の花弁処理してる事バラすなよ」

はい。

[#twnovel](#)

新入社員さん

僕の会社には新入社員さんがいる。

10年間ずっと新入社員。

常に緊張の面持ち。仕事遅め間違い多め。けど物凄く元気だ。

「最近新人すぐ辞めちゃうんだ。彼くらいできなくて平気なのに」と課長。

彼はある種のお手本だって。

人権無視なと思っていたら、休憩室で充電してる彼を見つけた。

[#twnovel](#)

花見

花見の場所取りなう。

同じような境遇の人多いね。

お隣さん美人だ声掛けよう。

黙 殺 デスヨネー。

ツイッターでも見てよ。

[#twnovel](#)

花見当日。お隣には昨日のあの美人。

2日間場所取りとかどこのブラック会社。

同期に話したら

「どこよ美人」え？「いなくね？」え？

美人が僕をみて微笑んだ。

ぼっち薬

ひとりぼっちを拗らせた私に医者が薬をくれた。

「寝る前に飲んで下さい」

孤独から私を救うという小さなカプセル。

[#twnovel](#)

一週間経った。私は変わらずひとりぼっち。

薬の効きめ？そんなの知らない。

だって飲んでいないもの。

飲んだら独りじゃいられなくなるの。そんな怖いもの飲めないわ。

循環

嵐が全てを吹き飛ばす。

花を。傘を。服を。車を。家を。家族を。愛を。プライドを。夢を。全て。

吹き飛ばされたそれらはみんな、最果ての地で山になる。

そしてそこに住んでいる、最果て婆さんが売りに出す。

あの子の恋もリサイクル。そうして世界は循環し、今日もくるくる回ってる。

[#twnovel](#)

弱み

君の弱みを握った。

こんなものがっていうくらいささやかな弱み。こんなとこまで可愛いなんて。

けれど、握られたとわかれば、いい気持ちなんてしないよね。

だから思った。君の弱み、解消しちゃおう。

幸い僕に解消できそうな弱みだしね。

何って？ヒントは恋愛がらみ。

僕らに、春が来る。

[#twnovel](#)

海の言葉

流れていった言葉はやがて海になった。

キラキラと輝く言葉の海。

いくつかの集合体になって蠢き、ある時は美しく、ある時は猛々しく。

海の水はやがて、生命を育む。

放った誰かが忘れた言葉から生まれる、喜怒哀楽。

背びれ尾びれがついたそれはひらひら泳ぐ。

誰かの元へ。君の元へ。

[#twнове](#)

冷凍睡眠

冷凍睡眠で未来へ。

僕に合った時代がどこかにある。

最初の時代、僕の時代と大差ない。入眠。

次、さほど変わらない。次、次。どういう事だ。僕に合った時代など存在しないというのか。

もういい。

僕はもう、起きることをやめて永遠の眠りについた。

安心する。

そうか、ここが僕の世界。

[#twnovel](#)

毎日が

今日から社会人。

キリッと決めてさあ出社だ。

「おはようございます」

誰も、いない？早すぎたか。

10時誰も来ない。12時誰も来ない。帰ろうとすると人事部長が表れた。

「初日からいい仕事ぶりだな」

どういうこと？

「君の部署は、毎日がエイプリルフールだ」

俺、何か間違ったかも。

[#twnovel](#)

鳩が出ません

僕は手品師。

あまりの人気のなさに、とうとう鳩にまで愛想を尽かされた。

これじゃメインの手品ができない。

悩んでいるとお隣のミケが名乗りをあげた。頼むぞミケ。

「猫がでますはいっ！」

ミケは眠って出てこない。

お客さんは大爆笑。僕らコンビの人気は爆発。

世の中って、世の中って。

[#twnovel](#)

お願いがあるの

君の目的はもう知ってるよ。
だけど未だに口からでまかせ。
愛してるとか好きだとか。
嘘だっていいしなんだっていい。
僕の関心事はひとつ、君が側に居てくれること。
何が欲しい？
君の願い、全て全て叶えるよ。
だから言って。
愛の言葉よりも正しい、君の醜い欲望を。
「お願いがあるの」

[#novel10](#)

才能

彼女は自分の声を雇う。彼女の側には声優が1人。

彼女は自分の服装を雇う。彼女の側にはスタイリストが1人。

彼女は自分の文才を雇う。彼女の側には作家が1人。

絵心、視力、運動神経。沢山の才能に埋もれる。

ホントの彼女はどこへやら。

名前以外の真実を、知ってる人はもういない。

[#twnovel](#)

葬式

僕は死んだ。

こんな事もあるかと自分で葬儀の準備をしておいて良かった。

24時間ツイッターに眩きがないと、僕のアカウントは自動的に葬儀場になる。

廃人に相応しいツイッター葬。

黒いリボンのアイコン。時折眩く僕BOT。臨終なう。まさかの嫁参加可能。

なんて幸せなお葬式。

[#twnovel](#)

気持ちの整理

僕は片づけが苦手だ。

乱雑に散らかった僕の気持ち、なかなか胸に収まりきらない。

大事なものを押し込めてっど。

「手伝おうか？」片想いの彼女。

綺麗な手で僕の胸に気持ちを押し込む。

「あら？」不意に手を止めた。

「私宛だけど貰っていいかな？」

手には「キミガスキ」。

「実はね...」

[#twnovel](#)

魔女

老いた魔女は言った。

「私の魔法はもう枯れた。最後の魔法は死ぬ時さ」

僕は子供で何も解らず、死なんて未来のお伽話。

最後の魔法に期待しながら、毎日魔女の紅茶を飲んだ。

季節変わって、魔女は死んだ。

桜が咲いた。淋しくなった。

ねえ魔女、魔法は桜なの？それとも止まらぬこの涙？

[#twnovel](#)

遺伝子組み換え

遺伝子組み換え全盛期。

生物全て、最善に組み換えられていく。

子供達は生まれてすぐに、遺伝子組み換え手術を受ける。

大人好みの子供達。

どうせ同じと集められ、同じ教育、同じ成長。

粒の揃った大人が出来た。

社会問題続々解消。

けれど消えない問題1つ。自殺は未だに社会問題。

[#twnovel](#)

少女ロボット

彼女シミュレーターを買った。

女の子型のロボ。

恋愛ゲームをしてくれて、バッドエンドだとどの分岐で失敗したのかを教えてくれる。

クリアすると、そのまま恋人になる事も可能らしい。

開始！3日目で失敗。Pi、結果を出す。

分岐より前に問題点？

「プレイヤーニモンダイヨウカクニン」

[#twnovel](#)

狼の腹から自分達を助けただけでも驚きなのに、彼はその腹に石を詰めた。

「ご遺体に惨い」震える赤ずきんに「気を失ってるだけだ」と答える。

こんな設備もない場所で殺さず腹を割り少量の出血だけで縫合。

「貴方は」「知らない方がいい」

顔に縫い目のある黒い医師はそう言うと消えた。

[#twnovel](#)

おでん

おでんの王様は鍋の底に住んでいる。
バイトの手を逃れてここまで育った。
全てのおでんは彼にひれ伏す。
殺伐とした冬を越えて安定の春。今日も武勇伝を皆に聞かせる。
「怖いのは新入りバイトだ...」
語りが始まるや否や地が傾く。

[#twnovel](#)

「全部いただくわ。花見で使うの」まさかの大人買い。

砂の街

滅びた街は砂となる。

砂は深い眠りについて、時が止まったその後に、神は世界をひっくり返す。

時間が動く。再生する街。繁栄と栄華。

けれどもやがては滅びて砂に。砂は眠る。時は止まる。

砂時計の永遠の輪廻。

定められた時に打ち勝ち、神の御手を休めた街は、未だひとつもないという。

[#twnovel](#)

森へおいで

暗闇へ迷い込んだ。

自分が何者かも解らない僕は安心する。

僕は何者でも良いのだ。天使でも悪魔でも。思ったものに僕はなれた。

永遠の暗闇。

と違ってたら闇は案外すぐ終わる。

僕は振り返る。視界ゼロかと思われた闇は外からは丸見え。

誰かの裸踊りが見える。

[#twnovel](#)

ようこそ、黒歴史の森へ。

端っこ同盟

立ち上がりましょう。我々の扱われ方にはまだ多くの問題があります。誇りを持って戦いましょう！

嵐のような拍手。端っこ同盟定例会。

パンの耳、布の切れ端等に混ざって何故か人間の僕参加。

「貴方も大変ですね」「それほどでも」

それは僕がお笑いコンビの、 じゃない方だからってこと？

[#twnovel](#)

ふぁぼ

恋愛の話をいつもふぁぼってくれるあの子。

最近笑える話ばかりをふぁぼる。眩きも減ったし何かあったの？

君の事気になって、笑い話を多めに書いていたけれど、いつしかまた恋愛話にもふぁぼが。何かあったかなんてただのフォロワーの僕には解らないけれど、元気がでたなら嬉しいな。

[#twnovel](#)

いつか

一緒に死んでくれる人を探してるんだ。

彼はそう言って私の手を取った。

選ばれたのだ。

彼のこと愛していたし、それでいいと思った。

けれどなかなかその日は来ない。彼に問う。

それはいつかでいいんだよって、私の指に指輪をくれた。

彼にとってはずっと側にいるための約束だったみたい。

[#twnovel](#)

リセットボタン

人生リセットしたい。

願っていたら悪魔が現れた。

「これが人生のリセットボタンだ。押すか？」

親切な悪魔、有り難う。

僕は迷わずボタンを押した。

[#twnovel](#)

気付いていないか人の子よ。

99回目のリセットだ。

反省なくして変化は生まれず、同じ人生辿るのみ。

100回目の同じ人生の幕開けだ。

人生リセットしたい。

願っていたら天使が現れた。

「リセットよ？貴方の素質は変わらないわけで、またぼっちになったり嫌われたりするのよ？

同じ不幸味わいたいなんてマゾ過ぎない？」

ちょっと待て。

失恋からのリセット案だったんだけど、

俺って死にたくなるほどぼっちで嫌われてるの？

[#twnovel](#)

図書館の夜

真夜中の図書館には言葉が落ちてる。

行間からこぼれ落ちた情景や感情が、溢れ落ち積み重なり物語を紡ごうと蠢くのだ。

けれど美しいだけの彼ら、物語ることなど適わずに、朝の光にシュワッと融けてけむりだす。

僕は毎朝窓を開けるとそれらを空へ還した後で、10時図書館の扉を開ける。

[#twnovel](#)

「そろそろ貯まるな」記帳屋で感情スタンプを貰う。
負の感情印が貯まると正の感情がひとつ消える。逆もまた然り。
負の感情は貯まるのが速い。僕にはもう夢も希望もない。
「頑張んな」重厚なスタンプ帳を渡される。
「カード化しないの?」「目に見えた方がいいんだよ」
記帳屋は笑った。

[#twnovel](#)

ラーニング

恋人が出来ない。

こんな小さな島国では限界なのかも。

世界へ羽ばたこう。

英語だ。独りで学べる教材でラーニング。

[#twnovel](#)

俺は完璧に英語を話せるようになった。

そして未だに彼女はいない。

そういえば俺、未だ人相手に英語使った事ないや。

ぼっちの俺に必要なのって、英語じゃなくて会話力？

眠い空気

眠い空気がやってきた。街中にやってきた。

みんな眠った。TVをみたまま、ツイートしながら、買い物しながら。みんな寝た。

時計も寝た。空気も電波も。みんな寝た。

[#twnovel](#)

リーン

世界が揃って目を覚ます。

あまりにすっきり目覚め過ぎて、眠ったことに気づかない。

何事もなく、今が続く。

13日の金曜日

まだ驚いてくれるのかな。恐れてくれるのかな。

だってもう何回目？

俺のこと知らない人だって沢山いるし、俺だって年老いた。

こんな格好してさ。若気の至り引っ張って、ああ俺恥ずかしい。

[#twnovel](#)

「13日の水曜日だー」「ジェイソンがくるぞーくるぞー」「誰それー」「しらなーい」
ですらい。

ミルクトルネード

珈琲にミルクを入れた。

くるくると渦巻き可愛らしい、と思ったら渦はどんどん大きくなった。

溢れた渦はカップを飲み込みテーブルを飲み込み部屋を飲み込み家を飲み込み街を飲み込み空へと消えた。

どうしよう。

携帯でニュースをみると大きな竜巻発生って。

俺、いつから龍神になった？

#twnovel

お題「桜」 #twnvday

【毎月14日はツイノベの日！ お題「桜」 [#twnvday](#)】

桜か。魔女は水晶を覗く。

桜の物語は既に随分取り出した後だ。当然何も浮かんでこない。

それではと魔女は水晶から予言を取り出す。

「今回のお題、関東が活躍する」なぜ？

「西は散り、北は蕾」

関東の参加が多いってネットの摂理じゃ。

従来は桜前線と称するスタッフが、

開花ボタンを現地でONする仕組みでしたが、今回は遠隔操作可能。

遺体の根元埋め込み事案への対応とし、柳で使用される 幽霊ホログラフを改良搭載。

今なら花卉の自動回収システムもお付けいたします。

いかがです？新しい桜システム、お安くしますよ？

[#twnvday](#)

お帰りなさい。この季節には必ず来るからそろそろだって思ったた。

相も変わらず綺麗だなんて照れるわ もっと言って頂戴。

ところでその子は誰かしら？結婚したい？おめでとう。

そうして人は続くのね。散っても必ず咲いて続いて。

なんだか私と同じね。

宴をどうぞ。綺麗な花を贈るわね。

[#twnvday](#)

「この桜吹雪に見覚えがねえとは言わせねえ」

そう言って彼は肩をだす。この桜は！だけど。

「知りません」「俺のこと好きって！」「知りません」「あの夜！」「知りません」

彼の気持ちは知ってる。それと妻子がいる事も。

[#twnvday](#)

「って展開に憧れるけど刺青する覚悟はない」「憧れないよ...」

桜の下でおままごと。

「あなた、きょうのさかなはばさしよ」「うまいな。くろきりもってこい」「はいどーぞ」

[#twnvday](#)

「ちょっと馬刺しまだ？」「はいはい」「私、赤霧がいいなー」「丁度季節だからあるよ」「

よかった」

あの頃と立場が違うけれど、同じように桜は綺麗で僕達はとても幸せだ。

お題「花見」 #twnvday

「チューリップでお花見しよ」

「菜の花きれいだからお花見」

「タンポポ！庭でお花見できる」

花さえあればなんでもお花見。

君の目当ては知ってるの。私の作ったお弁当。

お花見しようと言った後から、必ずおねだりしてくるの。

「あのね、ピンクのいれてほしい」

はいはい桜でんぶよね。

[#twnvday](#)

配達したら直帰でいいって。

ワインとつまみのデリバリー。桜の名所にお届けにあがる。

「こっちですー」後輩じゃん。

「注文お前？」「はい」「花見デート？いいね」「ですよーさ、座って」「あ？」「書いてありますよ」

商品一覧に俺の名前。

「お花見しましょ」

謀られてやるか。乾杯。

[#twnvday](#)

雨だ。こんな事もあるかと室内を予約した僕名幹事。

花見も便利になって、桜は立体映像が主流。

次々出てくる酒に料理。

みんなが笑う。俺も笑う。花見最高。

[#twnvday](#)

「申し訳ありません機材トラブルです」

映像が消え、薄暗く電気が点る。

僕はひとり。誰もいない。

当然「みんな」も立体映像。

腹痛

お腹が痛い。

診察を受けると医師が神妙な顔をする。

そして黙って聴診器を差し出した。

僕は自分のお腹の音を聴く。

「我々は宇宙人だ。宣戦布告。侵略開始。」

イタタ。

「いずれ胃液で溶けるでしょう。お大事に」

出すわけにいかないと処置無しだ。

僕のお腹には未だ宇宙人がいる。

イタタ。

[#twnovel](#)

鳥

朝。カーテンに描かれた鳥が囁りだす頃窓を開ける。

一斉に飛び立つ鳥達とカーテンの梢を揺らす風。

タッセルで束ねて訪れる静寂。

夕方。窓辺に鳥が集まる頃窓を開ける。

お帰りなさい、カーテンの梢で休む鳥達。

鳥達は夢見る。1日の夢を。

夢はカーテンを抜け出して、そっと私に物語る。

[#twnovel](#)

薔薇の花

今日は婆ちゃんの誕生日。

死んだ爺ちゃんを真似て薔薇を一輪贈る。

寝たきりの婆ちゃんは笑ってた。こんな立派なの始めてよって。

この安物より貧弱な薔薇？ それってもしかして。

僕は庭を探す。隅の方、小さな薔薇がひっそり咲いていた。

改めて差し出すと婆ちゃんは泣いた。声をあげて。

[#twnovel](#)

立った

「立った！」立ったからには責任をとらねばならない。
茶柱は決意した。ご主人の肩にそっと潜みいいことを起こそうと企む。
ご主人は目下片想中。彼と会話のひとつでも。
偶然にも彼が側に来た。そしてご主人の肩に手を。
「葉っぱついてる」
固まるご主人。捨てられる僕。幸せに（パタッ）

[#twnovel](#)

月と蟹

月を見上げて泡を吹く。

蟹はふわふわ泡を吹く。

数多の泡はふわふわ浮いて、蟹の頭をふわふわ越えて、
泡吹く蟹を綺麗に映して、ふわふわ空へと消えました。

どうかどうかあの月に、ふわふわ泡が届くよう。

どうかどうかあの蟹が、孤独に泣いたりしないよう。

ふわふわふわふわ、泡を吹く。

[#twnovel](#)

赤ちゃんの作り方

- ①基本となる感情を母体から取り出す
- ②その感情を元に土を作る
- ③土を成形
- ④出来上がったらコウノトリに託す

【人間の作り方第三章より】

「誕生後の育成により様々な性格へと変化しますが、人間の性格形成に最も大きく影響するのは基本となる感情なのです。ここ赤線。テストでます。」

[#twnovel](#)

コウノトリの揺りかご

「悪いのはコウノトリだ。ちゃんと親を選ばないから」

「ならば、人間の本質を見極める眼力を下さい！」

[#twnovel](#)

コウノトリは困っていた。誰にこの子を託せばよいのか。

あの人はダメだ。この人もダメだ。

端から心が親である、そんな人間はいないのか。

そうして、子供は生まれなくなった。

群雄割拠

東京が尖閣を買うらしい。

明石が大阪都に参加したいというのも風の噂で聞こえた。

これは。

日本中からざわめきがおこった。また来たのだ。この時代が。

[#twnovel](#)

「我が県は3地域分裂を目指す」

「水が欲しい。どっか水郷を買おう」

「日本から独立しよう」

日本は、再び戦国時代に突入する。

神さまのカメラ

神さまは、滅びた地球でカメラを拾った。
カメラの中には美しかったこの星の風景。
しばらく目を背けていたけれど、ここはこれ程美しかった。
神さまは地球を再建する。カメラを元に。
そうしてまた滅ぼす。カメラを拾う。
再生の度、地球はますます美しくなる。
一枚の写真が、地球を繋ぐ。

[#twnovel](#)

造られた空。造られた海。造られた大地。造られた命。
貴方がくれたこの花束も、きらきら光る翠の石も、そして二人で描いた恋も。
全て全てが造りもの。
それでもいいの。かまわないわ。
造られた君と二人一緒に、造られた日々を過ごすのよ。
造られたあたしの造られた幸せ。

[#twnovel](#) [#創作都市](#)

王国

ふわふわの王国。ふわふわの王国。

ここでは私は主じゃないの。

仕える私はしあわせで、そうしてとても満たされて。

瞳を閉じればなんにでもなれた。瞳を閉じればどこにだって行けた。

明日の事なんて考えなかった、小さな頃によく似てる。

ふわふわの王国。おふとんの王国。

[#twnovel](#) [#創作都市](#)

二次元

二次元への移住が始まった。

二次元では願いが叶う。友情が手に入る。嫁が出来る。

「叶えて貰いたきゃわかるよな？」

神にプログラムをかいていただくためにはお布施が必要だった。

[#twnovel](#)

「二次元国は牢獄だ。搾り取れ」そして神にも神がいた。

移住しなかった富裕層は箱庭牢獄を眺めて笑う。

新人

「うちの新人覚え悪すぎ」

「でもまだ入って間もないし」

「他の課の子達は結構ちゃんと覚えて仕事してるしうちの新人は遅すぎです」

「仕事内容ほかの課と違うから...」

「でもしっかり教えてるし条件は一緒です」

「上司が違うよね」

「え？」

「あ、覚え悪い新人ってイマスヨネー」

[#twnovel](#)

創作都市2

このアパートが何階建てであるのか誰も知らない。
そしてここが何階であるかも。
地上を見たことのある老人達は口を揃えて言う。昔は良かったと。
空中庭園の桜が舞い散る。その行方はアパートの谷間。
自分の足下が知りたくなかった。
僕は旅立つ。誰も知らない、その奈落へ。

[#創作都市](#) [#twnovel](#)

ひつじ雲

ひつじ雲の群れが空を覆う。
もう幾日も動かない。
呼ばれた彼女、ひつじ雲から毛糸を紡ぐ。
するする紡ぐとひつじは消えた。
夜に追われてまた明日。
疲れすぎたかなかなか眠れず彼女はぼんやり数えだす。
ひつじが一匹ひつじが二匹。
眠った彼女を抜け出たひつじは空へと登って雲となる。

[#twnovel](#)

振り子時計

僕は挑戦する振り子時計。少しずつでいい。僕は大きく強く振りたい。

[#twnovel](#)

「貴方振り子強くしないで」「してない」

「昔バス停少しずつ動かして家の前に持ってった前科が」

「お前こそ全く向いてない俺の気持ち少しずつ動かして持ってった前科が」

「喧嘩うってんの？」

ゴメンなんかゴメン。

道しるべ

道に迷っていたら君がいた。

「あっちよ」って。指し示す。

崖があった。谷へ落ちそうな細道があった。獣がいた。沼を越えた。

そうしてようやく辿り着くと、そこには君が。

「君のお陰で辿り着けた」そう言うと君は「ホント、びっくり」と笑った。

そう言えばどうして君の方がはやいの？

[#twnovel](#)

マジックカット

こちら側のどこからでも切れますでお馴染みのマジックカット。
嘘つき、どこからでも切れないじゃないか、
とのご指摘に配慮致しまして、この度メッセージの変更を行いました。
「こちら側のどこかから切れます」
お食事にスリルを。

[#twnovel](#)

マジックカットによる血管破裂事案が続き、ワイドショーを賑わせた。
当然販売禁止。
その一方、ヤッホーオークションでは値段が跳ね上がる。
「これ販売禁止になったやつだろ？」
「改善されて販売再開したみたいよ」
《プシャアア！》
奥様方に大人気。

[#twremix](#) [@chocolatesity](#)

はじめました

冷やかし中華始めました。

誤字ってるよ。今日暑いから冷たいのいいな。

あ、これ下さい。しばし待つ。きたきた。おいしそう。

今シーズン初だよいただきます。

[#twnovel](#)

「お客さん、それ食べちゃ困りますよ」え？

「冷やかしだけにして下さい」ええっ？

「冷やかし中華ですから」誰得？？

食べちゃいけない冷やかし中華は一体誰得？

[#twremix](#)

「ちょっと！今食べようとしたでしょ。お腹ならしたキモーイ」

冷やかし中華を目の前にした男にツインテール女子が言う。何この光景。

「ある人にとってこれはご褒美。冷たい視線で乗り切る暑さ！」

ご主人、なんかあったの？

[#twnovel](#)

ワレワレは宇宙人

ワレワレは宇宙人。綿毛の振りをして。

ワレワレは宇宙人。ふわふわと侵略を。

ワレワレは宇宙人。庭に根を張って。

ワレワレは宇宙人。綺麗な花を咲かす。

タンポポですか？

いいえワレワレは宇宙人。きっとどこか遠くから来た。

そうワレワレは宇宙人。いつか世界を俺色黄色に染めてやる。

[#twnovel](#)

お嬢さん

お嬢さん、おはんなさい。

小さな娘と縄跳びしてる。

お嬢さん、おはんなさい、さあどうぞ。

娘が入ると続けとばかりにお嬢さん（自称）が飛び込んだ。

次々次々お嬢さん（自称）。

列の後ろは見えやしない。

そうこうしてると娘が抜けた。

もうお嬢さんって年でもないわ。

[#twnovel](#)

男子寮

恋が終わった。

彼との思い出は胸にしまって、新しい恋をしよう。

[#twnovel](#)

「新入りだー」

「宜しく」

「俺と二股かけられてたやつか」

「その節は」

「気にすんな仲良くやろう」

ここは彼女の胸の奥。過去の男達が整理される男子寮。

あれ、俺の前の彼氏は？

「勇敢な最期だった」

もはや忘却済み。

人間も捕食されるべきだ！

世界食物連鎖協会には生物達が殺到した。

怒れる生物達に神はTVを見せる。

画面には、過労死する人々、恋愛出来ず子孫を残せない人々、争い殺し合う人々。

「ここは実験場。こうして我が捕食しておく」

[#twnovel](#)

神はTVを見る。画面には「NHK（人間捕食協会）」

花になる

君への恋を諦めきれずに切なさのあまり花になる。
君を見詰めて暮らしたい。僕の願いが届いたみたい。
花を愛する君のお庭で君を想って僕は咲く。
ぶちっ。

「雑草増えたな」

憐れ僕は、彼女のその手で抜き捨てられた。
蒲公英の僕。
花の世界も「ただしいケメンに限る」らしい。

[#twnovel](#)

温室の薔薇

病床の父に呼ばれた。

「これを預ける薔薇を守れ」庭の温室の鍵だった。

父の死後暫くして温室へと向かう。

茂る薔薇。園芸したことないのに託されても、なんて思いながら扉を開く。

[#twnovel](#)

薔薇にまみれて沢山の箱。箱の中には女の写真。

「先祖代々思い出の墓使用心得」

僕の趣味は園芸です。

ウサギ月夜

月が見えないその日を選んで月の見えない丘に登る。

丘の上にはウサギの行列。ぴょんぴょん跳ねて待っている。

黒く黒く染まった月が、丘の淵へと降りてきた。

落ちたウサギを回収したなら再び空へと帰ってく。

月はとっても綺麗だった。讃えながら、愛しながらウサギたちは月へと帰る。

[#twnovel](#)

三姉妹

来たわ、新しい女よ！

私達家庭の味三姉妹は新たなる敵を迎え撃つ。

卵焼き！味噌汁！肉じゃが！

代表的な家庭料理。この味に馴染める？この味を作れる？

できなきゃあんたは捨てられる。ここの僕ちゃん、私達を愛しているの。

「うちもお味噌汁は麦味噌なんです」

もしかしたら強敵の予感。

[#twnovel](#)

フィルター

迷惑メールの設定を変えようとしたら、暗証番号ど忘れしてる。

番号入力3回間違うとアウトで、挑戦権は次の日に持ち越し。

間違え続けて1ヶ月。なんだ、いつもと表示が違う。

「もしかして：別人？」

いえ、ただ愚かなだけの俺です。

ていうかそれ聞くならもっと早い段階の方が。

[#twnovel](#)

戦

僕らが住まうこの星に、未知の種族が現れた。
対話しようと思ったけれど、言葉がまるで通じない。
互いの心が解らぬままに、やがて僕ら戦った。
幾年幾年続く戦乱。
大地に荒野が広がった。
けれど僕ら誰も知らない。戦う理由を誰ひとり。
それでも僕ら戦い続ける。
きつきつこれからも。

[#twnovel](#)

小さな巨人

この季節、我ら「さくら」の稼ぎ時。
綺麗な花の足りない部分を我ら擬態し補正する。
落ちた花弁葉っぱに替わり、花の綺麗をお手伝い。
今日の仕事は藤の花。藤には匠の技がいる。
我ら群れなしぶら下がり
「ふぁいとーいっばーつ」
小さな巨人の我ら今年も何より綺麗に咲いてやる。

[#twnovel](#)

ベストセラー

ベストセラー本が久々に帰ってきた。借りられっぱも疲れるぜ。

私ときたらもう3年も借りられてない。

羨ましい。あんな風になってみたい。なればいい？

自分の中身の文字を組み替えそれらしく。

ねえどうかしら？ずるい私もすごい俺も。

[#twnovel](#)

翌日図書館全ての本は、同じ本になっていた。

シャンプーを探せ

温泉に入る前に髪を洗う。

シャンプーをってうわリンスだった。

「間違えた」「何」「リンス先にした」

ざわ。

え？目を閉じていてもわかる周りの反応。

「お前」

「なん？何かあったの？」

「元気で暮らせよ」

悲鳴と共に大勢が走り去る音がする。

目を開けると誰もいない。

全裸の俺が独り。

[#twnovel](#)

キスしたくなる口紅

キスしたくなる口紅を見てたら美容部員が微笑んだ。

「そちらの口紅で魅力的な唇が作れます」

片想いの彼、キスしてくれるかな。

「ただ簡単なおまじないも必要ですけど」

おまじない？

「彼の前に立って」立って？

「つま先だって目を閉じて下さい」

OKキス出来そうな気がしてきた。

え？

[#twnovel](#)

うさぎとかめ

かけっこしようと兎が言った。
これってもしや眠った兎に亀が勝つあの物語？
美味しい試合は受けて立つ。
よーいドン。
兎速いし疲れたな。少し休もう。
亀は眠りに落ちていく。

[#twnovel](#)

ゴールで兎は待ちぼうけ。
今日は亀の誕生日。
パーティー仕掛けて待っているのに、
亀ときたら。亀ときたら。

桃太郎

桃が流れてきた。
拾って割った。
子供が出てきた。
育てた。
キビ団子持たせた。
鬼ヶ島へ見送った。
沢山宝を持って帰った。
めでたしめでたし。
桃の落とし主が現れた。
宝を請求された。←今ここ。

[#twnovel](#)

魔女

魔女になりたいってあの子は言った。

黒い服に赤いリボン。黒猫抱えて箒で窓から飛び降りて落下。

初恋の魔法をかけた君に、今日会える。

[#twnovel](#)

お久しぶりって、黒いシャネルバックに赤い口紅。

隣の黒服の彼は誰？

旦那なの、って20代位の男を連れた君は40代の美魔女。

僕の魔法はとけた。

もぐら叩き

遊びじゃねーんだ素人はすっこんでろ。

天使はハンマーを構えた。

地上の人々からイケナイタイミングで魂が抜け出してた時、天上から発見して中に戻るのが彼らのお仕事。

モグラ叩きの要領だ。

今日は多い。モードがイージーからハードに切り替わったようだ。

「連休なか日働く気しねえ」

[#twnovel](#)

暗闇

ただ、僕は眠っていたんだ。何も感じず、何も、知らずに...

暗闇の中、ここが僕の人生。太陽はあまりにも遠すぎて望む事すらできなかった。

絶望？否、安楽。

なのにある時天を目指す。理由なき衝動に僕は運命と名付ける。

[#書き出し](#)

ミーン地上マジ天国。埋まってる場合じゃなかった。

夏本番蝉が鳴く。

end

the end

また一冊終わった。

良かった。今回は幸せな結末。

死神業を始めて3ヶ月。

人生の本っていうその人の一生が綴られていく本の最後の頁に、endの文字を確認してサインする。

そしてその人の魂を添えて神様にお返しするのだ。

明日、桁違いに多いな。

一体何が起こるんだろう。

[#書き出し](#)

消えていく君

君が消えていくのを、僕は止められるだろうか。

「だってもう必要ないでしょう」そう言って淋しく笑う。

違う、君は大切な存在だ。

「私のせいで傷ついたっていう人をもう見たくないの」

言葉が詰まる。僕達が間違えているだけなのに。

待ってよ、ねえ。

[#書き出し](#)

その日「頑張れ」という言葉が消えた。

黄色い糸

小指に見えたのは黄色い糸だった。

繋がる先には彼の指。彼にも見えているみたい。

繋がってるのを喜ぶべきか、赤くないのを悲しむべきか、解らずいると彼が言う。

「夕焼けは黄から赤に変わるよね」そうだね。

「だからそういうこと」どうということ？

「必要なのは時間だけ」晴れ続けることもね。

[#書き出し](#)

雨降り

雨が降っていた。

止まない雨が降り続くので、地上の全てに屋根をかけた。

雨は降らない。時は過ぎる。

老朽化した屋根から雨漏り。漏れは止まる所を知らず、止まない雨の悪夢再び。

人々はまた屋根を作る。老朽化、雨漏り、悪夢、屋根を作る。

繰り返す悪循環。

気がつけば地上は4畳半。

[#書き出し](#)

ボクの正体

「そんなにボクの正体が知りたい？」

「それ程でも」

「本当は知りたいんでしょ」

「多少は」

「本音でたね。素直になった君に教えるよボクの全て」

「必要事項のみで結構です」

「女性遍歴とかからいっちゃう？」

「こちらご記入を」

俺、今バイト中。入会手続きしてあげてるだけなんだけどね。

[#書き出し](#)

沈む船

沈んでゆく船と運命を共にする。

君の住まう海底へと辿り着く手段はこれしか考えられないんだ。

愛しい君にもう一度逢おうと潜れども、人の身には君の深淵は深すぎて。

だから僕は、船ごと沈む。沢山の乗客を道連れに。

乙姫、君のいない地上になど未練はない。

竜宮の君にもう一度逢いたい。

[#書き出し](#)

嵐と猫

嵐の中を歩いていると急に足が重くなった。見るとネコが必死にしがみついていた。

お前が飛ばされるの防いでいるのにやっ。大丈夫だと答えると涙目になった。

死にたいのかーっと片手猫パンチしてくるネコが可愛いくて抱き上げる。

ピュー。

僕は今、地球を公転している。衛星になる日も近い？

[#書き出し](#)

一生のお願い

百回目の一生のお願い。

悪びれる様子もなく、君は僕に何度でも甘える。

こんな君に仕立てたのは僕。

何度でもしてよ。千度でもしてよ。

一生のお願いを叶えれば叶えるほど、僕は君の来世もさ来世も、縛ることが出来るから。

君の願いは僕との約束。

永遠に共にいて欲しい、そんな愛の告白。

[#書き出し](#)

生きてる

残念でした、生きてました。

ドヤ顔の探偵、独白待ちの犯人。

そこへ私は割って入る。凍り付く二人。

「どうして」「死んでなかったみたいで」「クライマックスだぞ空気読め」

探偵と犯人は恐い顔で私を睨む。

そして顔を見合わせると次の瞬間、私を崖の下へと突き落とした。

真っ逆様。海が青い。

[#書き出し](#)

僕の声

僕が話す言葉以外は信じなくていいから。
さあ目を閉じて。彼女の黒い瞳に目隠しする。
みんな口々に彼女を誘う。
こっちにこっちに。まっすぐおいでさあ速く。
惑わされないで僕の声を聞いて。

[#書き出し](#)

「パーン」失敗。振り下ろした棒は地を打ち、西瓜は健在。
「あんた声ちっさいよ」怒られた。

消しゴム

「この消しゴムで、すべて消してあげる」

そう言うと君は消しゴムで擦る。

掌を、背を。

消されるはずもなく「やめて」と言うと君は去った。

翌日、僕を無視する君。

「昨日の何？」

尋ねると君は微笑む。

「あなたは消えていかないのね。あれすると、大抵の人は離れて消えてしまうのに」

悪趣味。

[#書き出し](#)

水溜まりの世界

水溜まりを覗き込んだら、そこに僕がいた。
あっちの僕の方がイケメンに見える。
手を伸ばすと中の自分と入れ替わられた。
。ここは、僕イケメンの世界。
雄としてモテる僕。
けれど恋人や友達はできず利用され騙される日々。
孤独に苛まれ再び水溜まりを覗く。
手を伸ばす。
次の世界は天国か地獄か。

[#書き出し](#)

ツイッター後

ある日ツイッターがこの世から消えていた。

そこでしか会えない人がたくさんいたのに。

やむを得ず僕は新天地を探す。

新しい知り合い。そして、何人かのフォロアさんと偶然再会もできた。

変わらない日々。

だけど時々胸の奥、ひっそりと咲いた花のように、ツイッターの思い出が美しく揺れる。

[#書き出し](#)

ビルの群れ

ビルの群れに囲まれ、私は途方に暮れた。

これが都会の恐怖なのか。

歩き続けてはや数日。コンビニがあるから食事もトイレも困らないけれど。

そう言えばこの店どうしていつも横にある？店員さんと顔なじみって同じ店じゃん。

高いビルの屋上へ登る。

私は、ビルの群れの大移動と共に歩いていた。

[#書き出し](#)

気づかない

僕がここにいることに、君はきっと少しも気づかない。

夕暮れの図書室。片想いの君を斜め後ろから眺める幸せな時間。

#書き出し

貴方がそこにいることに、私は少しも気づかない振り。

私の斜め後ろ。片想って幸せだよね。振り向かないでいてあげる。

いつか満足したのなら、好きだと君から言ってよね。

凍った心

凍った心を溶かさずに割ってみたら、バラバラに砕けた心はまるで、透明な硝子のようにでした。

私はそれに、色とりどりの硝子を合わせ、天使の模様を作りました。

光を通すと輝いて、天使が微笑むようでした。

だから君も笑いませんか。

失敗なんて恐れなくて。大丈夫。何度でも僕がなおすから。

[#書き出し](#)

もふもふ

我は「もふもふ」を欲する。

魔女の言葉に困惑する。

それは何か。尋ねるすべも無く、王は民衆に触れを出す。

「もふもふを届けよ、届けぬは死刑ぞ」

民衆は恐怖で何とは聞けず、それぞれのもふもふを城に届けた。

王はそのまま、全てを魔女へと奉る。

「感謝する」

もふもふを知る者、未だ無し。

[#書き出し](#)

メガネの世界

メガネを外すと見えなくなる世界。さっきまで見えてたモノもぼやけて見える。
希望への欲求が裸眼の世界を否定する。けれど見覚えのあるぼやけたこの世界。
このどこかで、僕は恋に破れて...
記憶までもがぼやけてきた。
僕は再びメガネをかける。極彩色の世界の中で、愛せない誰かと恋をする。

[#書き出し](#)

私と彼女の、何が違うのかしら。

目、鼻、口が1つずつ。耳が2つに黒い髪。

鏡に映っているかのようにそっくりなのに。どうしてバレたの？

地球人には不思議な力でもあるというの？

[#書き出し](#)

「これが宇宙人。明らかに人と違うな」

「これでも人を模して整形してるそうです」

「美術の成績1 確定だな」

冷たい朝日

冷たい朝日に目が覚めてしまった。

いつも朝日は温かなのに。眺めていると光の角度が動かない事に気付く。

動かない時計に風見鶏。そして君は固い顔。

この世界を知ってる。ここは君の描いた自画像の世界。

君に口付けて部屋を窓を開けた。

この絵を生きた絵にしよう。きっといい絵になるはずよ。

[#書き出し](#)

春を思う

君を思い出すと、春が近づいたことを知る。
だって君はいつだって、春にはいなくなるのだから。
寒さの頃は、嫌という程側にいた。
迷惑がっても、面倒がっても。
嫌っても嫌っても舞い戻る。綺麗だけれど、重い君。
なのに春にはこの薄情さ。当たり前か。
君は雪。
解けたその身で春を伝える。

[#書き出し](#)

死

僕は死が愛しい別れよう。
そう言うと君は「死ぬなんてダメ」と言って泣いた。
意味が解らない。僕は死ぬなんて言ってない。
伝えたのは死を愛していると言う事。
死にたいなんて思えない。
死んでしまうと僕は死を、愛し続けられないじゃないか。
愚かな君、別れてよ。
僕は死とのみ添い遂げる。

[#書き出し](#)

飛べない鳥

飛べない鳥は空を見る。

もしも私が空を飛べたらあのお月様に届くのに。

もしも私が空を飛べたらあのお星様に届くのに。

飛べない事を確認しては溜息ついて憂い顔。

空渡る鳥は鳥に言う。

あれは飛べても届かない。

けれども鳥は知らん顔。そして呟く。

残念ね、飛べさえすれば私はもっと凄いのに。

[#書き出し](#)

オレンジ

オレンジ色の光を見ていた。

15分の観覧車。あのオレンジのゴンドラの中、彼とあの子が乗っている。

グループで来た遊園地。抜け駆けた二人を待ち受ける。

扉が開いた。驚いた顔。冷やかしの声。みんなの笑顔。

私は見つけた。二人がこっそり繋いだ手と手。

目が離せずに私は笑う。笑うしか...

[#書き出し](#)

楽譜

楽譜に残された暗号を解くと、音の世界の理が見えた。

僕の時代の幕開けだ。

書いた曲は全て売れた。僕の曲だけ溢れる世界。

大成功のはずなんだけど、この空虚って何だろう。

多分僕は思ったよりも、音楽のことを愛してる。

暗号の楽譜をネットにあげた。

ねえ誰か。音楽の理、手に入れてみない？

[#書き出し](#)

違う景色

君の瞳は何を映しているんだろう。僕と同じ景色かな？

なんてちょっとロマンチックに尋ねたらぷいっとそっぽを向かれた。

「何言ってるの？同じなわけがないでしょ？」しょんぼり。

#書き出し

なんなの？

私の視界にはいつも貴方がいるじゃない。

気づいて貰えてないのかな。こんなに貴方が好きなのに。

起きたら世界は

朝起きたら世界中の誰もいなかった。

これは一体。耳を澄ませば沈黙の世界。人間だけが消えていた。

僕はこの世を儚んで、この身を投げて消え去った。

[#書き出し](#)

「死んじゃうなんて」「鬼どうしよ」「また私が鬼かしら」

世界では大規模でかくれんぼが催されていた。

彼だけが、知らなかった。

月曜日の朝は

ある晴れた月曜日の朝、私は寝坊してしまった。

急がなきゃ。走ったって遅刻だけど、気持ちのいい青空に見とれてるわけにはいかない。

電車でようやく一息。

そう言えば月曜の朝のいつもの憂鬱、感じる暇など無かったわ。

もしかしてこれって最適解？

それからというもの、月曜日は寝坊の日。

[#書き出し](#)

胡蝶の夢

ある朝目が覚めると蝶になっていた。

そうこれはそういう夢。

僕は花を探す。君の甘く美しい髪。ヒラヒラ止まってまた夢を見る。

目覚めるときっと、僕は君に触れられない、切ない人の身と変わる。

[#書き出し](#)

ある朝目が覚めると蝶に。蝶は夢見る、胡蝶の夢を。

いつか人の身になり、君と愛を語りたい。

何もない世界

この何もない世界に何を描くのだろうか。

真っ白な画面に向かい問う。

伝えたい事などそれほどなくて、詰まらない呟きを繰り返すばかり。

それでも何かを描きたくて、140を0に近づける作業を繰り返す。

いくらツイートしても何1つ築けないなんて解ってる。

それでも僕は今日も呟く。世界へ。

[#書き出し](#)

井戸端

少数派の井戸端会議。

この人もしや同族かも。思えどなかなか信用出来ず、水汲み目的ですよの素振り。

相手も同じく、会話少しで水を汲む。

水汲み天国。汲み放題。

だって僕らは怖いんだ。信じて裏切られる事が。

枯渇するまで水を汲んだらようやくここへと辿り着く。

「おたくの名前何でした？」

[#書き出し](#)

祈り

ただ祈るだけの無力な掌で君の幸せを祈る。

今日の君はなんて綺麗。

白く輝くドレスにヴェール。薔薇のブーケがよく似合う。

今まで見てきたどんな君より一等素敵な今日の君。

目があう。君の潤んだ瞳。「誓います」永遠の約束。

そして君は、彼とキス。

神父の僕は厳かに、初恋の君を祝福する。

[#書き出し](#)

真実

悪いな、姉ちゃん。真実なんてもんはとうの昔に売り切れだ。

真実売り、やっと見つけた。

「真実って？」「人それぞれさ」「あなたの真実で弟は死んだわ」「ご愁傷様」「何を売ったの？」

観念した顔で男は懐から真実を取り出す。こんなものが...

「だから未来永劫真実は売り切れだ」

馬鹿野郎。

[#書き出し](#)

真夜中の電話

夜中の電話に驚きを隠し静かに間違いだと告げた僕に、彼女の言葉は更なる衝撃だった。

「貴方を探してました」気味悪さと興味。

「優しく間違いを正す貴方のような人を」そう言って彼女は泣いた。

毎晩電話した。恋をした。

ある日。

「壺、買わない？」印鑑、英会話教材。最近おねだりがすごい。

[#書き出し](#)

僕の好きな機械

僕は君に恋をした。ただ、君は機械なんだ。

悩みは愛の伝え方。

「毎朝君の味噌汁が食べたい」作ってくれた。

「ずっと側にいて」あっさり了解。

気長にいくしかないのかな。

愛してるって繰り返す。ハイと頷くだけの君。

いつか僕が死んだ後、共に消えた言葉の意味を、解ってもらえますように。

[#書き出し](#)

今更

今更「私も好きだった」なんて、ずるくないですか、センパイ。

そう言うと「そうね」って。

「私ってどうしようもなく狡いの。卒業する今ようやく君の気持ちに答えられるくらいシャイなの」

そう言ってにやりと笑う。

不意に塞がれた唇。肩越しの桜が美しかった。

シャイなセンパイ、ずるいです。

[#書き出し](#)

桜の頃

美しい桜の樹の下には死体が埋まっているという話を聞いた夜、試しに掘ってみた。

「何してるの？」突然現れた裸足の女。

「死体探し？」掘った穴を見る。白い、これは。

「それは私の」骨？幽霊？ギャー

[#書き出し](#)

やれやれね。桜の下にタイムカプセル、埋めちゃダメね。毎年この時期見張るの大変。

女神

女神は振り向くまで待つんじゃなくて、振り向かせるもんだ。

幸せになりたい。だから僕は努力する。

お祈り、神殿清掃、贈り物。

女神はなかなか振り向かない。これ以上どうすれば。

僕がそんなことしてる際に、あいつ、いきなり女神を後ろから抱きしめた。

振り向いた女神。幸せになったあいつ。

[#書き出し](#)

四角い天井

夢で見た空は四角い形をしていた。

水槽の底か。水のない水槽。ここから脱出したい。

水を入れるスイッチを見つけた。水で満たせば出られそうだ。

スイッチを押した。水圧で息が出来ない。苦しさに藻掻き水を止める。

だけどこのままじゃいけないと、また水を。

[#書き出し](#)

悪夢か。見上げると四角い天井。

チョコレートパフェ

待て、それは俺のチョコレートパフェだ。

何故お前が食べている。

俺の為と言いながら、いつもお前は自分の為だ。

仮面ライダー映画、旗付きお子様ランチ、ポケモンカード。

いつも俺をダシにするお前。許せん、最終手段だ。

「ぱぱあ（号泣）」

とても食べられないだろう。

溶けゆくパフェ、あばよ。

[#書き出し](#)

悩み

悩みに食べられてしまえばいいんだ。

君はいつだって悩んでばかり。溜息ついて憂い顔。

悩める君が悩ましい。

もしも君が食べられてくれたら、僕の悩みは減るのにね。

[#書き出し](#)

悩みが私を食べるのならば、悩みというのは貴方なの。

それなら私は喜んで、貴方に私を差し出すわ。

どうぞ残さず召し上がれ。

出直し

彼女が一番怪しいと思っていたんだが、出直しだ。
状況証拠はバッチリだったのにアリバイがあったとは。
アリバイがないのは、美人のあの子と、寡黙なあの子。
美人、寡黙、美人、美人、美人、美人！怪しい！

#書き出し

僕の心を奪った恋文、名前も書かず下駄箱に入れたドジッ娘捜しは欲望にまみれ続く。

花降る

降るのは花か、雨か。

天気予報では雨が降りそう。けれど雨なら淋しすぎるから、どうか花が降りますように。

[#書き出し](#)

朝から花が降っている。良かった、雨なんか降ったらまるで僕の涙みたいだから。

幼馴染みの可愛い君。娘のような妹のような。

今日の君は美しい花嫁。

花が降る。どうかどうか幸せに。

ロールケーキ

昨日、街中からロールケーキが消えた。
それと同時に、シュークリームも消えた。
始まったのだ。スイーツ頂上決戦が。
「うお、顔が一っ」「苦しめ！」
クリームの漏れたロールケーキは顔を取り替える。
「プレミアムでいく！」
顔が無くなるまでの消耗戦。
その地は生クリームで白く染まった。

[#書き出し](#)

そらとぶゆめ

夢の中で、いつも空を飛んでいる。

憧れのはずな空なのに、僕はちっとも嬉しくない。

地へ降りることも叶わずに、

あの子が誰かと一緒にいても、邪魔することもできやしない。

夢から醒めると地上の僕。けれどちっとも嬉しくない。

あの子はやっぱり誰かと一緒。ないものねだりで空へ祈る。

#書き出し

怪現象

幸せになっていく怪現象に襲われている。
私の不幸は今や迷子で、貴方と出会っていいことづくめ。
私は幸せに慣れていなくて、時々不安になっちゃうの。
そうしてふらっといなくなっても貴方は必ず迎えてくれる。
怒った顔、怖いけどね。
今日も貴方の膝の上、まんまるくなって眠らせて。にゃー。

[#書き出し](#)

同じ夢

いつも俺の夢は欲望の実現一步手前で強制終了されて、一日の始まりへとシフトする。

今日も同じ。いつも通り夢を引きずり登校。

だけど何だ。これ、夢と同じ展開？

この場所台詞。そうだこの後君が言う。

「キスして」

きた。何度も夢見たこの瞬間。イメトレ完璧。いただきまっ

#書き出し

いつも俺の夢は...

やわらかいところ

心の一番やわらかいところに触れた。

温かい君の心。

けれどもすぐに逃げられる。嫌われたのかなどうしよう。

戸惑っていると急に心を掴まれて、いとも簡単に奪われた。

犯人は君。

「怖い？」

不安そうに僕に聞く。君は不安だったんだね。だったらあげる。疑っていいよ。

僕の心は君のもの。

[#書き出し](#)

嘘吐き

あ、嘘を吐きましたね。

私のツイッターは特別製。嘘をつくと文字が真っ赤に染まるのです。

最近貴方は嘘ばかり。

デートしてる、結婚します。全部嘘だ。

お礼の呟きだけを残して殆ど全てが赤い文字。

今日も君は嘘をつく。

その文末には、[#twonovel](#) [#書き出し](#) という謎の言葉。

君の嘘に星ひとつ。

最愛の君

そうだった、僕は君が好きなんだった。

記憶が消えてく。大切な事は忘れないと勝手に信じていたけれど違った。

君に教えて貰った事を繰り返す。君は僕の最愛の妻。

[#書き出し](#)

やっぱり大切じゃない事は忘れるのね。

貴方が私を愛してたなんて嘘だもの。

でも最後くらいいいわよね。今が一番幸せよ。

心

君の感情を端から削ってみようと思ってさ。

怒、恨。君って優しい子なんだね。負の感情が端に追いやられてる。

喜、楽。中心に近づくと正の感情。真ん中にあるのは愛だった。

愛しか持たない君が完成。

ひたすら愛してくれるけれど、僕は何だか物足りなくて、感情のレッスンを君に始める。

[#書き出し](#)

牛丼屋

セレブ専用の牛丼屋って何だそれ！？

店に入るといたって普通。

出てきた牛丼は従来通り。値段も380円。

「セレブ専用ってどういうこと？」

「セレブ牛を使っています。セレブだったのに普通の牛と同じに丼にさ値段も同じ。

落ちた牛。そのロマンを味わうんです」

牛丼屋は大盛況だった。

[#書き出し](#)

神さま

君は神さまみたいなひとだった。

世界のどこかに存在していて、けれども会った事などなくて。

それほど期待はしてないけれど、時々くれる「応え」が嬉しい。

とりどりの反応。とりどりの答え。

淘汰されない八百万の神。

ツイッターの向こう、神さまみたいな君達に、僕は今日も祈るように呟く。

[#書き出し](#)

山田

君の心臓をノックしてみたら、入ってますって声。

この声は「山田?」「誰?」「田中」「田中!開かないんだ助けて」

どうしたもんか。壊すわけにもいかないし。

正面突破、しかないね。待ってる山田。

#書き出し

「好きです」友人の為俺の為。

「ごめん無理」デスヨネー。

死ぬなよ山田。あ、いやむしろ...

カップラーメン

カップラーメンは3つ同時に作る主義です。

醤油、カレー、シーフード。至福が香る3分の後、僕はいつもカレーを選ぶ。

[#書き出し](#)

醤油は兄、シーフードは弟。僕らは3人兄弟だった。

両親共忙しいから、昼は3人でカップラーメンが多かったね。

みんな消えて僕だけ残った。

けど思い出は、ここにある。

愛たい

愛たいから恋よな。

偉ぶって言ったつもりでしょ？

だけど私はお見通し。

私の耳は壊れてる。けれど代わりに見えてるの。

貴方の口から生まれた声は、文字になって空気に浮かぶ。

私はそれを目で見て読むの。

可愛い貴方。

でも気づかれたくないでしょう？

私は言うの。ちょっと脹れて「偉そうに」

[#書き出し](#)

電子の歌姫

小鳥が私の歌を聴きにきた。

私の歌は偽物だってみんなが言うのに小鳥は言うの。

「気持ちの伝わる歌ですね」気持ちって何？私にあるの？

小鳥は笑って飛び去った。

[#書き出し](#)

あの子の歌はよくわかる。

昔々籠の中、捕らわれていた私の気持ち。

電子に心はないけれど、聴くものになれば、芽生えるの。

花びらの如く

細かく千切られた紙は、まるで桜の花びらのように、風に吹かれて舞い上がった。

君に渡したラブレター。ごめんの返事と一緒に返された。

こんな思いの詰まったもの僕には持っていられないって、うまいよね。

そういうところも好きだった。やだ涙。

桜のように来年にはまた、恋が花咲きますように。

[#書き出し](#)

屍体

街を覆っていた雪が解け出す陽気を迎えた頃。 その日、一つの屍体が港に上がった。

俺の屍体。

冬の初め俺達は集結した。

平行世界のどこでもぼちな俺。俺 同士ならうまくいくと思ったのに諍いが起こって結果がこれだ。

「また屍体だ」

雪の下からあと何体、俺に殺された俺がでてくるだろう。

[#書き出し](#)

拾われっこ

拾ってくれてありがとう。ずっと貴方を待ってたの。
恐かった。誰にも見つからずにどこかへ流されるところだった。
私は幼くて色々足りないけれど、未来だけは持ってるの。
一緒に夢を見ませんか。
「書き出しいかがですか」のタグをつけ、今日も私は待ちわびる。
手を取り愛してくれる誰かを。

[#書き出し](#)

蛇足

唐突に思い出す。蛇には足がない。
けれど蛇は自分を憐れと思うのか。きっと思わない。
足ある人間が勝手に不幸を押しつけるのだ。
持つものが持たざるものを蔑む世界。
世界は、狂っている。

[#書き出し](#)

「へー彼女いないんだ淋しいねー」
淋しくない。憐れむな。俺は不幸じゃないぞ。ないんだからな。

件名

件名を無題にしたまま送ることが増えた。

用件があった頃はそれが件名だった。

だんだん用件はなくなって、挨拶なんかが件名になったけれど、

それすらよそよ そしく感じて今は無題。

そんなある日久しぶりに件名が。

「件名：大事な話」「本文：将来について大切なお話があります」

予感に震える。

[#書き出し](#)

チクタク

彼女の背中からはチクタク音がする。

個性が尊重されるご時世。彼女はきっと時計仕掛けなのだろう。

いつも通り約束通りに始まるデート。

チクタク。

「時間がないの。結婚して」「え、でも今はまだ」「...さよなら」

チクタク。

ドカーン。

爆発。

彼女、結婚が解除 ボタンの時限爆弾だったのか。

[#書き出し](#)

翼

翼の欠片が落ちていた。たくさん落ちていた。
そのふわふわを集めて、袋に閉じこめて、枕にした。
天上の寝心地。これなら悪夢も見ずに眠れそうだ。
夜、僕は夢を見た。空を飛ぶ夢。
僕の翼は羽ばたく毎に、落ちていく。次々と次々と。
そうして、転落。
起床。いつも通り通勤。
翼の欠片が落ちて...

[#書き出し](#)

北へ

一軒の図書館が国道七号線を疾走していた。
逃げなければ本が処分される。
理解はしている。けれど受け入れられない。
本の電子化。貸し出し図書も例外ではなかった。
ここにある本はもはやも全て。
図書館は疾走した。守りたかった。
図書館特有のあの静謐な空気を、誰より誇りにしてたから。

[#書き出し](#)

散歩道

体を棄てたら軽くなる？

それは神のみぞ知るってやつだ。僕は死神で神じゃない。

君から心を取り出し、天へと届ける。それがお仕事。

「死んだら飛ぶのかと 思ってた」

そういう人もいるけどね。それが君の心の重さ。

君の手を、繋いで歩く。

飛べるようになるまで話をしよう。

君の心を辿る散歩道。

[#書き出し](#)

唇

彼女の唇がサヨナラと動いたあと逃げだした。

嘘をつくのはもう嫌だって。話せない彼女。怒ってるのは目でわかる。

探してみたら、玄関の隅で泣いていた。

どうして泣くのと尋ねたら、貴方のキスは好きだったって。

可愛いヤツめ。僕は唇をポケットに隠す。

彼女に返すのは、もう少し後だ。

[#書き出し](#)

反転

世界を反転させてみたら、世界中に文字が潜んでいると知った。
文字は誰かの心を語る。
私の気持ち解ってくれないっていつも君に怒られる僕。
けれども君の後ろの壁に君の気持ちを書いてある。
そうかそういう意味なのか。
話も聞かずに悩みにすばっと解答したら、君は何故だか怒って去った。

[#書き出し](#)

優しさ

「優しい場所」行きの手ケットをもらった。

僕は「優しい場所」行きの電車に乗る。

「次は、全員猫撫で声」降りたくない。

「次は、毎日甘やかし」うーん。

「次は、次は」降りたい優しさに出会えない。

「次はどこに止まればいいのか？」車掌は困惑している。

「あの、ここで」僕は始発駅で降りた。

[#書き出し](#)

タクシー

隣に止まったタクシーに、君に似た人が乗っていた。
あんな別れ方で気になってた。
目があった。表情が曇る。君本人か。
青になる信号。僕もタクシーも猛スピード。
競って競って、赤信号でゴール。僕の勝利に悔しがる君。
今回は事故らなくて良かったな。
ていうか、それでいいのか運転手。

[#書き出し](#)

気紛れ天使

気まぐれな天使さん。あなたの携帯番号を教えてよ。

折角死んだ事だしさ、僕は君との恋に生きるよって死んでるけれど。

「教えてもいいんだけど…」少し迷って教えてくれる天使。二人の天上の恋、今始まる。

[#書き出し](#)

「おかけになった電話は電波の届かない場所…」

天国と地獄の遠距離恋愛は難しい。

湖面の月

湖面に映った月は、まるであなたのようにでした。

ゆらゆら揺れて頼りなさげで今にも消えてしまいそう。

なのに何より美しく、妖しく僕を誘うのです。

一歩二歩、冷たい水。三歩四歩、広がる波紋。五歩六歩、もうこれ以上は進めない。

近づきすぎると消えるところも、あなたと似ている湖面の月。

[#書き出し](#)

愛情過多目薬

自分に愛情過多の目薬をさした。

君への愛が過ぎてしまって、尽くして尽くして、疲れ果てた。

愛は盲目っていうけれど、何にも見えない日々だった。

さて効いたかな？

目を開ける。ぱーっと視界が広がった。

目の前にいるのは、きっと君。えーと、うんと、君だよな？

そうだったのか、さようなら。

[#書き出し](#)

透明人間

実は僕は透明人間なんだ。

知っている？どうして君が知ってるの？

見えないからこそ透明人間。それなのに。

問われた君は恥じらいながら

「この子が教えてくれたのよ」って。

君に指された僕の胸には透けない君が住んでいる。

丸見えすぎる僕の心。

心の君と気の合う君は、今日も僕に会いに来る。

[#書き出し](#)

めでたしめでたし

「めでたし、めでたし」の続きを知りたいの？

悪趣味な人ね。でもいいわ。教えてあげる。

王子と結婚した私。そこに愛などなかったことに気づくのよ。

義母の虐め、義父の誘惑、王子を秘かに想う小姑に嵌められた私は子供と離されは城を出された

。

どうなることやら、続きは昼ドラでお楽しみに。

[#書き出し](#)

8色目

虹の8色目の色を決める権利が与えられた。

7色でだいたい出揃ってるし、今更8色にされたって困るよね。

わかった。俺天才かも。最後の1色はこれ！

[#書き出し](#)

「虹の8色目は透明に決まりました。街の声です」

「拍子抜けですね」「決めた人でなんか小心者？」「日本人っぽい無難な選択ですね」
黙れ。

たくあん

たくあんが最強の漬物だと気付いた時には既に遅かった。
最強を自負する辛子漬けの猛攻。辛（から）い！辛（つら）い！
たくあんを信じるべきだった。今からでも間に合うか？
「ま、どぞどぞ」
お茶とたくあんの最強タッグ。敵が和むや否やたくあんで殴打！
血塗られたたくあんには良い値がつく。

[#書き出し](#)

つまらない者

つまらない者ですが。

そう言って、君は私に手を差し伸べた。

つまらないなら要らないわ。

そう言う私に驚く君。

これは謙遜というもので。

それじゃつまらないの？

はい多分。

でもそれだけじゃね。

どうすれば？

私が好き？

はい好きです。

はなからそう言えばいいじゃない。

私は君の手をとった。

[#書き出し](#)

謎

また一つ、謎が増えた。

君の気持ちが解った途端、君の態度が解らない。

君は僕を好きなのに、どうしてそんなに冷たいの？

手を繋ごう。遠ざかる。一緒に帰ろう。走り去る。

君ってもしやツンデレですか。

大丈夫だよ。僕は気だけは長いんだ。

[#書き出し](#)

ストーカーに悩んでる。全然好きじゃないのにな。

ガラスの靴

私のガラスの靴は、もう割れてしまっている。

割れて煙のように消えた。なのにお城で落とした靴は、あんなに綺麗に残ってる。

あれは私の靴じゃないの？でも私だけがピッタリだった。だけど。

[#書き出し](#)

結婚した今も不安に思う。

もう片方の靴を持って、いつか誰かが現れたなら、私は一体どうなるの？

すきなもの

好きなものについて、好きなだけ語っていいと言われたのだが、
僕が一番愛しているのは沈黙である。

沈黙について語るなんて滑稽だ。僕は沈黙を貫く。

ああ美しい静かなる世界。

[#書き出し](#)

新入社員研修ってきついなー。

あの好きなものも話せなかった子どうしよ。

使えんの？カウンセリング勧めようかな。

航海日誌

海賊船の航海日誌を手に入れた。

ここに宝の在処が隠されてるはず。喜び勇んで読み始めた。

「×月○日告白した」「×月△日初めてのキス」「△月○日結婚まで秒読みなのに問題発生実は」
日誌はここで途切れていた。ちょっとまで、どういう事だ。

宝？そんなのどうでもいい。続きは？問題って？

[#書き出し](#)

おはようおやすみ

おはよう、そしておやすみ。

あの日から少しずつ失われている君の時間。

少女時計の君はかつて30分毎目を覚ました。今や24時間毎だ。

君に会わなきゃ僕の時間は止まるのに。

[#書き出し](#)

彼女が目を覚まさない。おはようもおやすみもない世界。

僕は君を待っている。二人の時間は止まったまま。

天使なんかじゃない

私は天使じゃない。

貴方に幸せを運ぶ事も、苦しみから逃し死を与える事も出来ない。

天使だなんて呼ばないで。有難うだなんて。

波形がフラットになる。身寄りない老人が最初の看取りだった。

[#書き出し](#)

あれから5年。私は天使だ。

それで楽になれるなら、貴方の小さな幻想を許してあげる。

私マジ天使。

夢オチ

夢オチなんておもしろくない結末でこの恋は終わった。
君もキスも喧嘩も全ては淋しい僕の夢物語。
変わらない朝、教室、そして君。
キスから始まり喧嘩に至る。
そして夢オチなんておもしろくもない結末でこの恋も終わった。
夢オチとループ。
困ったときの2大オチを引っさげたまま物語は回る。

[#書き出し](#)

しっぽのきもち

目が覚めたら...尻尾が生えていた。

感情に連動する尻尾を必死に制御した。

嫌な上司の前でも楽しげに尻尾を振り、彼女の前では尻尾を持ち上げ優位の姿勢。

尻尾は嘘をつかないという先入観のお陰で人間関係は円滑になった。

皆は尻尾ばかり見た。

お陰で僕の顔など忘れ、今や僕の本体は尻尾です。

[#書き出し](#)

怪盗現る

怪盗が時間を盗んでいると噂になっている。

時は金なりなのに許せない。私が怪盗から時間を盗み返してやるわ！

「貴方の時間いただきます」

[#書き出し](#)

「手紙の件お受けします!!!」

「物わかりいいのね宜しく」

その日から怪盗が恋人気取りなのは気にいらないけど、

時間泥棒が消えてホント良かった。

スイーツ刑事

冷蔵庫からプリンが消えた。事件だ。

俺はスイーツ刑事。プリンの痕跡を辿る。

犯人はこの扉の向こう。ガチャ。

「犯人は君だ」「証拠は？」

俺は彼女に口づけする。絡める、否カラメル味のキス。

「証拠はここに」

[#書き出し](#)

俺はスイーツ刑事。今日もスイーツが俺を呼ぶ。

※これはジョークです。

[#締め](#)

GW

ゴールデンウィークをさらにゴールデンにする魔法。

そんなコピーに釣られて予約した「GW彼女と行く露天風呂付き客室のお宿」

人気の温泉地、美味しい料理、可愛い彼女とあんなことやこんなこと。

夢広がる。

仕事も調整した。入金も済んだ。行き先の下調べも完璧だ。

よし、あとは彼女だけだ。

[#書き出し](#)

空想の街（ソラクジラ）

準備はできた。大きな大きな大きな網。
時計塔のてっぺんが一番だけど、それじゃ大人に止められるから。
空飛ぶクジラ、ソラクジラ。僕はあいつを捕まえる。
南の空、雲が消え始めた。
海に見えるこの丘は風が強い。スカートを押さえるあの子。
「帰ろうよ」って。
女は黙ってる。僕は網を構えた。

[#空想の街](#)

風が強まる。
あの子は泣き出しそうな顔でしゃがみ込んだ。
見えてきた、ソラクジラだ。
大きい。大きい。
太陽が顔を隠す。僕は網を振りまわした。
くそ、もう少しなのに。岩に登る。届かない。
ソラクジラと目が合った気がした。
僕は尻もちをつく。
クジラの腹がすーっと通り過ぎていった。

[#空想の街](#)

「それでクジラは捕まったの？」
クジラが通り過ぎるのに見とれて話が中断してしまった。
「ううん。かわりにその子はママを捕まえました」
「え？パパなの？」「そうよ」
驚いた顔の娘。
「次のクジラの日いつかな」「どうして？」「私も網準備しとかないと！」
一体何を捕まえるつもりやら。

[#空想の街](#)

空想の街（仕立屋）

今日は雨が降るかもしれないって。

それならコートを作ろうかしら。

雨を装う水玉模様、雨に負けない青空模様。雨を彩る紫陽花模様は葉っぱで蝸牛が動く仕様。

この街で、手に入らない素材はないの。

それってつまり、望んだ全てが服になるってそういう事よ。

貴方は何を望みかしら？

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

コート作りで1日が終わる。雨はお客を遠ざける。

明日は晴れてよ。こういう時は神頼みだ。

今日のコートの切端で作ったてるてる坊主を軒先へ下げる。

電車が走る布、星が光る布、小鳥の止まる布。

せっかくのコート、晴れたら買いに来てくれるかなあって晴れたらコートいらなくない？

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

今日も雨。軒先のてるてる坊主が申し訳なさそうに揺れる。

雨が上がったところで元々それ程お客が多いわけでもないし気にしないでいいわ。

このお店って、中央区の結構わかりにくい路地にやる気なく開いてるものだから、

来客よりもメール注文が多いのよね。

今日のご注文を確認確認。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

仕事依頼メールをチェックする。

「恋が叶う服お願いします」結構多いのよこういうの。

個人的には色恋に服なんてって思うのよ。

だってどうせ脱、あ、昼間からゴメンナサイね。

さてと、じゃ、お仕事ははじめますか。

個人的な価値観とお仕事は別よ。

どんな服でも承るのがポリシーなの。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「店長注文入ってます」昼食から戻るとバイトの子が言う。

「どんな？」注文票を覗くとあらいいセンス。

「これ着る人選びそう」バイト君はふふんと笑う。

「店長好みの美人です」

つまり出るところでてる体型。最近の子って細いだけでつままないの。

これは俄然やる気出た。

[#空想の街](#) [#ぷっち](#) [#仕立屋](#)

納品の確認メールを出しておこう。

【ご注文ありがとうございます。

明日朝一番に、うさぎ宅配便がお届けにあがります。

何かご要望、ご変更がありましたらお知らせ下さい。】

[#空想の街](#) [#ぷっち](#) [#仕立屋](#) [@_mininchu_poem](#)

ご注文のワンピース、重要なのは布選び。

清らかな白と情熱の赤。

真逆のような2つの心、けれども目指す所は同じ。

どちらも素直でまっすぐだ。

それならそういう布がいい。

降りしきる雪と揺らめく炎を閉じこめた布を取り出した。

動きもあるし、きっと元気になれるはず。

[#空想の街](#) [#ぷっち](#) [#仕立屋](#)

布に鉄を入れた。

この注文、実は縫製がかなり特殊。

雪の布と炎の布。炎が雪を溶かすから、ちょっと仕掛けが必要なのよ。

夢美堂で買った夢を二つの布に見せたなら、夢見てる間に縫い合わせる。

きっちり縫ってしまったならば、雪が溶け出すこともないわ。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#) [#ぷっち](#) [#夢美堂](#)

ワンピース出来上がり。

「似合いそうだ」とバイト君。

上品で爽やか花のような服。

「こんな服着てこられたら落ちます」「何に」「恋ですよ」

ああそうかもね。

自分の為に装ってくれてそして機嫌良く笑ってくれる。

服は魔法よ、空気を作る。

気に入ってくれれば良いけれど。

[#空想の街](#) [#ぷっち](#) [#仕立屋](#)

「恋が叶う服はどうになりました?」「何それ」「注文受けたって」

忘れてた。美人の仕事優先するのは人の性ね。
準備だけは少しずつ始めてる。集めた情報、少し整理しないとな。
ああでもいい仕事に集中したあとはあんまりやる気がおきないのよね。
近所のカフェで一息つこう。

[#空想の街 #仕立屋](#)

そのカフェはうちの店から歩いてすぐの所にある。
案内されて席についた。

「ミルクティー、ウバで。それとサンドウィッチがあれば下さい」
このお店凄い。本で満たされている。
推理小説を読み耽りたいところだけど、お仕事があるから今日は画集にしておこう。

[#空想の街 #仕立屋 #ブックカフェ黒猫](#)

レタスサンドは美味しかった。
肝心の紅茶の方も、なんてストロング。
思いがけず素敵な場所を発見した喜びに顔がにやけるけれど、雰囲気壊したくなくて画集に夢
中な振り。

今度はこのお店に似合う服仕立てて着てくるんだ！

[@likeanalleycat #空想の街 #仕立屋 #ブックカフェ黒猫](#)

店に戻ると仕事が待ってる。さ、始めるよ。
依頼者は女子高生。相手は同じ高校の先輩らしい。
マルケーで、朝と帰りに一駅分だけ一緒になる。
相手とは会話したことなし、か。
何この甘酸っぱさ。
見詰めるだけの片思いなんて、もう何年前に燃えないゴミに捨て去ったか。

[#空想の街 #仕立屋](#)

片思い。それもどこにでもあるような。
ぶっちゃけ服でどうこうできるって話じゃないわ。
けれど彼女は服に頼った。だったらしてあげられる事は1つ。
彼女が信じるに足る「恋が叶う服」を作るの。
告白しないと恋は始まらないのよ。だから告白しない言い訳ができないそんな服を作る。

[#空想の街 #仕立屋](#)

お守りに相応しい布を使おう。
流れ星の流れる布のワンピースとかどうかしら。

紺色で清楚、比較的安価。女子高生には丁度いいわ。

ざくざく切ってざくざく縫って、戦闘服を調える。

星が流れる。後悔少なめに戦えますように。

よし、終了。今日は頑張ったな。

これで明日はお届け二件。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

我々ウサギ宅配便は、どこよりはやく、風よりはやく、そこのけそこのけ荷物が通る。

とにかく速さに命がけ。真心などは知りません。はやく正しく届けます。

ネコに負けない。魔女に負けない。けれど孤独に負けるから、必ず二匹で参ります。

ピンポン。ウサギ宅配便です。

[#空想の街](#) [#ぷっち](#) [#仕立屋](#)

カランカラン。

ドアの音と共に女の子が駆け込んできた。

「わーん」泣いている。たじろぐバイト君。

あ、この子もしかして。

「なーに？失恋？」

声を掛けた私を睨んだ。

その真っ黒なおかっぱに流星のワンピース、よく似合ってるじゃない。

さすが私。

貴方、恋が叶う服のお客様ね。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

奥に通して紅茶をクッキーをだすと、少し落ち着いてきたようだった。

女の子は顔を赤らめる。そりゃ恥ずかしいよね。さてと。

「告白できた？」「でもダメでした」

「できたならよかったじゃない」「よくないです。私は恋が叶う服をお願いしたのに」

知ってる知ってる。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「この服すごく可愛くて、これならってさっき告白しました」

「そしたら？」

「君のこと知らないから付き合えないって」

まーそうよね。

可愛いからとりあえず食っちゃおう系の相手じゃなくて良かったじゃない。

「恋が叶う服をお願いしたんです。恋が叶わないなら約束違反です」

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

うんうんそう言うと思った。

「で、諦めるの？」女の子は不思議そうな顔をする。

「だって断られて」「好きってそれで終わっちゃうの？」

女の子は黙り込んだ。

「あなた今回、知らない人から告白してくれた人に格上げされたのよね？」

「そうですけど」

「なのに諦めちゃうの？」

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「諦めないってありなんですか？」

「ありなしって話じゃないもの。気持ちってそうなるようにしかならないじゃない」

女の子は考え込む。

「私、好きです。諦めたくない」

「じゃ、それでいいんじゃない？」

「いいのかな」

「だから今回、あなたがしたのは失恋じゃない。」

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「じゃ、なんでしょう」

「告白っていう交渉。合意には至らなかったけど決裂はしてないわよね？」

女の子は考え込む。

「えーでもなんか騙されてる気がする」

笑ってる。

「はいはいご期待通りの結果が出なかった事は謝るわ。

そのかわりいつでも来てよ。お茶くらい出してあげるわ」

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

カランカラン。

女の子は帰っていった。

実はあの子に話していないことがある。

今言ったって言い訳にしか聞こえないし、逆効果だから言っていない。

「恋を叶える服」

実は私としては大成功だったりするのよね。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

あの服のお陰であの子は気持ちを伝えられた。

気持ちを伝えることを覚えた。

それが出来れば、いつか必ず、あの子の恋は叶うはず。

今この恋じゃないとしても、あの子の恋はいつか叶うの。

言葉にしないと伝わらない。

それさえ解れば、いつか、恋って叶うのよ。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

なーんて言ったって今だと言いつつがましいじゃない？

言葉には匂ってものがある。

この言葉を最高の状態で食べて貰う為には、もう少し熟成が必要なのよ。

だから今、一番大切なのは、あの子との関係を繋ぐこと。

それには成功したみたい。

いつかウェディングドレスの注文ゲットするわ！

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「僕びっくりしましたよ。こういう事、よくあるんですか？」

バイト君が聞く。

「あるわよ？っていうか無茶ぶり注文は殆どがこんな感じかな」

「仕立屋って大変なんすね」

甘いバイト君。

この街では、仕立屋が仕立てるのはその人の人生よ？

だからそれくらい当然なのよ。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「なあに？この訳あり臭プンプンな依頼」

シンプルな白い手紙。

「神楽山洋子。店長覚えてますか？」

バイト君が言う。当たり前じゃない。

「この橙は特別よ？時計塔の上から眺めた夕焼けの色っていうご指定だったの。」

美しい橙のコート。

[#空想の街](#) [#黒山春樹の3日間](#) [#仕立屋@to_rakei](#)

「そんな素敵な私の仕事を突き返すなんて許せないわ。きっちり納めさせてもらおうじゃない」

「何に仕立て直すんですか」そうよ、そこよ。

「欲しいです。ああもっと。って言わせるようなもの作ってやるわ」

「店長、ドS過ぎます」

[#空想の街 #黒山春樹の3日間 #仕立屋@to_rakei](#)

さてどうしよう。

今の彼女のサイズがわからない以上、ぴったりなものは難しい。

「そうねえ。それじゃ、マントにでもしようかしら」

少し大きめに作って、後々サイズ調節が出来るようにしておこう。

今夜までには出来るはず。

[#空想の街 #黒山春樹の3日間 #仕立屋@to_rakei](#)

夕焼けの布と夕焼けの糸。

この糸は、夜を教えると簡単にほどける。

布には報せないようにするのが難しいけれど、そこら辺は匠の技ってやつ。

糸解き時計を夜に合わせる。鳩がなく。するすると糸が解けて布に戻る。

さて、やりますか。

[#空想の街 #黒山春樹の3日間 #仕立屋](#)

橙の布を鉋が走る。迷ったことなんか無い。

頭の中にあるものをそのまま描くだけだもの。

縫製。今回は夕焼け同志だから、なんの苦労もない。

ただただ合わせる。種も仕掛けもいない作業。

うーん。布余ったな。おまけにブックカバーでも作っておこう。

[#空想の街 #黒山春樹の3日間 #仕立屋](#)

「今回は」「お仕事ないの？」

うちのお店に入り浸るウサギ宅配便が尋ねる。期待に満ち溢れた瞳。

「ないわ。眼鏡の人が取りにくるって」

顔を見合わせるウサ耳少女達。

「商売敵？」「我々は耳、やつは目」「「不自由同志！」」

いや、ただの代理人だと思うの...

[#空想の街 #黒山春樹の3日間 #仕立屋](#)

「はい」バイト君にマントとブックカバーを渡す。

「包んでおいてね。多分近いうちに取りに来られると思うから」

「はい。ああ例の訳あり依頼ですか」

「そうそう、宜しくね」

うちでは包装はバイト君の仕事だ。

意外と器用でセンスいいのよね。

[#空想の街](#) [#黒山春樹の3日間](#) [#仕立屋@to_rakei](#)

「夜市いかないんすか」「何それ」「西区でやってるみたいですよ」「へえ」
全くもって知らなかった。

この季節に合う桜散る着物をこの前作っちゃったのよね。

それを着て、端布でも売りに行こう。

ああいう所って服は売れないのよ。

試着、出来ないものね。

[#夜市](#) [#空想の街](#) [#仕立屋](#)

商品を並べる。

「「お手伝うー」」なぜついてきた。ウサ耳少女s。

流れ星の布、たんぼぼ綿毛布、葛畑布他にも色々。

それにしても、他のお店が気になるわけよね。

「ねえ、ウサギさん達」

「「なんだね」」

「手伝いにきたのよね？」

「「うん」」

「店番お願い」

遊ばにゃ損損

。[#夜市](#) [#空想の街](#) [#仕立屋](#)

さっき通り過ぎたんだけれどどこかしら。

糸を売っていた。あった、あのお店。

凄い。こんな糸があったなんて。

どうして私今まで使わなかったんだろう。

これを使ったらどんなに凄い服ができるかしら。

悩める。真剣に悩める。

全部欲しくなっちゃうじゃない。

[#仕立屋](#) [#糸遊](#) [#空想の街](#) [#夜市](#)

[@s_whalp](#)

いらっしやいませ。あらお客様？

ご注文はシャツなのね。どんなシャツをお望みかしら。

星空の為の服ならば、流星布に月光布。月ウサギの布、なんていうのもございます。

全てはあなたのお望み通り。ご注文はお好きな時で構わないわ。

私は2人分の紅茶を出した。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

[@s_whalp](#)

明日の朝にはできますよ。

ウサギ宅配便がお望みの場所へお届けにあがります。

流れ星の布ですね、かしこまりました。早速私は製作に入りますね。ありがとうございます。

バイト君とお客様を残して私は奥の部屋へと入った。

目的のある服を作るのって好きなの。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

[@s_whalp](#)

星が流れるこの布は実は裁断が難しい。

流れ星を避けながらざくざく切る。

ぶつかると凄い音と衝撃がくるから気をつけないといけないのだけれど、人気のある布だからそこら辺は手慣れたる。すっきりとしたシルエットのシャツが出来上がった。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

[@s_whalp](#)

天上の星。地上の星。空を見上げながら、この星々は何を思うんだらう。

して、持ち主のどんな夢を叶えるのだらう。

あの子の夢は知らないけれど、大切なもの、たったひとつでも叶うといい。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

「明日のお届けは一件ね」

この服を届けたら少しのんびりしよう。ご注文以外の業務はちょっとお休み。

世間はGWに突入するのよ。それはこの街だって同じ事。

休息なくしてよいものは生まれない。

偉大な職人達がどうかは知らないけれど、私は余裕の中から最高を生み出す方だ。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#)

空想の街（ウサギ宅配便）

[@ truth](#)

ウサギ宅配便の二人の長い耳がピクリと動く。

「「喧嘩売られた！」」「買いたい！」「でも風には勝てないの」
ジタンダジタンダ。

「「悔しい！」」

ウサ耳少女達は悔しがって駆け回る。耳が落ちた。

「はわわ」「補聴器落ちた！」

ウサ耳型補聴器。

[#空想の街](#) [#街の風](#) [#宅配便](#)

月を見てた。いつもこうやって屋根の上で充電するの。

何をとって、耳をね。我々の耳はきこえなくなって、そして誰より聞こえるようになった。
なんだって聞こえるウサ耳補聴器、これって誰がくれたんだっけ？
って、わーわー。

「「雨！！」」「「凄い！」」「何これ！」」「「撤退！！」」

[#空想の街](#) [#宅配便](#)

「虫昼嫌い」「我慢できないの」

「「う る さ い」」

ウサギ宅配便のウサ耳補聴器は高性能。

「スイッチ切れば？」と提案したら

「「沈黙の世界じゃ淋しくて死んじゃう」」面倒な。

「あ、耳に虫」

「「どこ！」」

ウサ耳補聴器を投げる二人。外したら沈黙の世界なんじゃ。

[#空想の街](#) [#宅配便](#) [#仕立屋](#)

「虫の音が気になるならラジオでも聴いてたら？」

ウサ耳少女達の為につけるラジオ。

「これ好き」「大好き」「「踊るの！」」

まさにウサギのダンス。

「「もっと！もっと！」」「Perfumeとか！」「少女時代とか！」

踊れる曲ばかり。

[#空想の街](#) [#ぷちラジオ](#) [#宅配便](#) [@_mininchu](#)

「なんで！」「すごい！」

「「ラジオって人の気持ちが解っちゃうの？」」

聴きたい曲が掛かって大喜びで踊る。

ラジオネームでわかるわ。リクエストしたんでしょ？

「してない！」「願っただけ！」

「「そしたらかかったの」」このDJ、何者？

[#空想の街](#) [#ぷちラジオ](#) [#宅配便](#) [@_mininchu](#)

[@s_whalp](#)

ウサギ宅配便は街をかける。

街はとても静かだ。

「なんで」「どうして」「「人が少ないの！！」」

疾走する二人。

ウサ耳が揺れる。ピンポーン

「「お届け物です」」

ひねくれ者の二人だけれど、お客様の喜ぶ顔は大好きだった。

[#空想の街](#) [#仕立屋](#) [#宅配便](#)

色彩

青い空 黄色い菜の花 白い雲 吹雪いた桜 黒髪へ落ち

[#tanka](#) [#jtanka](#)

いろいろという に

<http://p.booklog.jp/book/47555>

著者：なほ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nihosanpo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47555>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47555>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.